

心理学

担当教員： 平野 晋吾、廣重 佳治

履修年次・区分： 1・2年（共通—教養—人間と文化）

授業のテーマ： 心理学を初めて学ぶ学生を対象にした入門講義である。人間の“こころ”を科学的に捉える試みの成果を重要なトピックを取り上げて概説する。その中で、“こころ”の構造と機能を感覚知覚、学習、記憶、言語、思考、集団、性格、発達などの概念により想定し、心的活動が生物学的基礎と社会文化的な環境の影響を受けて成立・変化していることを理解していく。

この日の授業内容： 記憶と認知



「てのひらにペンを1本置いてみてください。次に、それをどかして別のペンをおいてみて。重さの違いが分かりますか？」変化したことがわかる最小の変化量のことを弁別閾（べんべついき）といいます。「物理的な変化がある、ということと、それを感知できる、ということは別物です。髪型の変化の弁別閾も、人によって違うでしょう？」納得です！



どこかが少しずつ変化していく動画をいくつか例示され、前後で比べると明らかに大きく変化しているのに、少しずつの変化がなかなか見分けられないことを学生たちは自覚します。「自分の感覚はそう正確なものではないと知って下さい。それが心理学のスタートです。」

(2017年4月取材)